

受 番	験 号		氏 名	
--------	--------	--	--------	--

入 学 試 験

(第 1 期)

学力検査

(平成 3 1 年度入学者選抜)

2018.10

学校法人 八紘学園

北海道農業専門学校

試験時間は 10 分間です。

6 + 4 =

9 × 5 =

4 × 3 =

4 ÷ 2 =

4 2 ÷ 7 =

1 7 − 9 =

1 3 − 4 5 =

1 2 5 ÷ 5 =

1 0 0 0 ÷ 1 0 0 =

0.5 × 2 =

5.3 × 0.1 =

0.3 × 1.5 =

4 ÷ 0.5 =

3.5 ÷ 0.5 =

(2 + 3) − (− 5 + 4) =

− 8 − 1 5 × (− 2) =

1 3 + 1 2 × 3 ÷ 6 =

(7 + 6) × 2 =

3 + 2 + 9 =

9 2 ÷ 2 =

0.3 + 5 + 0.7 =

(− 2)² × (− 5) + 2 1 =

5 3 × 2 =

$\frac{1}{3} \times 9 =$

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} =$

$\frac{1}{5} \times \frac{2}{15} =$

$-5 \times (-4)^2 \times (-3^2) =$

$(-2)^3 \times (-5) + 21 =$

$\sqrt{49} =$

$\frac{2}{8} \times 6 =$

$\frac{3}{4} - \frac{1}{2} + \frac{1}{9} =$

2 : 6 = 8 :

$\frac{9}{3} \div 0.3 =$

5 − 9 =

9 2 ÷ 0.1 =

1 L = m L

1 0,0 0 0 g = k g

4 0 m × 2 0 m =

(単位も記入すること)

3 0 0 m = k m

$100 \times \frac{1}{4} =$

$25 \times \frac{2}{5} =$

7 × 1 4 =

$\frac{5 \times 4}{2} \div 5 =$

(9 − 3 + 6) × 2 =

8 0 ÷ 2 0 =

4 ÷ 0.2 =

5 2 × 3 =

$\frac{1}{2} : \frac{35}{7} = 1 :$

3 m = c m

4 + 6 + 3 =

受験番号

$2 \times 1.2 \times 5 =$

$36 \div 6 \times 2 =$

4 0 × 3 =

6 × 9 =

$100 \times \frac{1}{2} =$

1 L ÷ 1 0 0 m L =

$3^3 - 20 =$

(8 − 9) + 3 =

6 2 5 − 1 1 1 =

4.9 + 0.8 =

9 7 − = 4 5

$33 \times 3 + 1 =$

$\frac{1}{7} + \frac{2}{6} =$

$\frac{1}{7} \times \frac{2}{6} =$

$\frac{1}{7} \div \frac{2}{6} =$

4 2 ÷ 7 =

8 + 4 =

1 5 × 4 =

$4 \times 3 \times \frac{1}{2} =$

2 : 1 = 9 2 :

$3 : 4 = 15 : \frac{\quad}{2}$

4 2 ÷ 3 =

$-4X = 24,$ $X =$

0.2 × 4 =

1.2 × 3 =

氏名

$1.2 \div 3 =$

$0.8 \times 0.2 =$

$(2 + 9 - 3) \times 4 =$

0. 7 m = c m

1 d L = m L

4, 2 0 0 m = k m

$\sqrt{3} =$ (小数点第 2 位を四捨五入)

$\frac{2}{3} = \frac{\quad}{9}$

3 + 9 − 4 =

4 × 8 + 3 =

4 + 8 × 3 =

4 ÷ 8 × 3 =

$\frac{2}{3} \times \frac{3}{4} =$

2 4 5 0 ÷ 2 =

2. 9 × 5 =

$\sqrt{64} \times 2^2 =$

5 0 × 4 =

2 3 2 9 − 1 4 3 2 =

2⁴ =

$3^2 - 12 \times 1.3 =$

1 2 ÷ 3 × 2 =

気温 25℃の時、 g

1 L の水は

4 5 0 − 6 8 =

9 × 8 =

5 × 0 =

現場からの農村学教室

105

テーマ 直売所は地域の「農ディネーター」

三、平均

滋賀・JAおうみ富士
総合企画部長



3年、旧中主町農協（現在JAおろみ富士）入組。金融、監査、観光、改革業務を担当。2008年5月、同JA直営のフアーマーズ・マーケットおろみんち開設。08・17年に同JA食育推進部部長、18年から現職。

「一風デイナーター」という言葉をお聞きになったことがあるだろうか。農や農地と生活者や①を、つなぐ機能を一言で表すために、私が10年前に考えた造語だ。

2008年に滋賀県のJAおうち農士が直営する農産物直売所として、フアーマーズマーケット「おうちみんち」が誕生した。9100平方メートルに農産物直売所、バイキングレストラン、交流施設を併せ持つ県内では大規模な地産地消の店だ。

あれから10年。初期の売出荷者は100人程度だったが、現在出荷者は570人になり、毎日出荷は1萬1千

が年々増え続けている。都市部と、緑豊かな田園風景を広げて、いる農村部が近距離にある。しかし、農村部では高齢化などによる生産基盤の弱体化と、全国的な流通基盤の弱体化と、全国的な消費地の近郊にあるという優位性が低下し、農村部は停滞し、遊休地化が進んでいる。

また、初めの3年間は出荷者の思いと消費者のニーズの

②地域農産物を「食べる」
「食べ方」を「伝える」

ポイント

食し、地域の消費者は何を求めているのか？」といった「知産知消」の意識⑨があるのではないかと思うようになり、知産知消を啓発するたため「参加して、知って、みて、食して満足 地産地消」

生・消結んで地域活性化

りの実績を上げることができた。一方で需要も盛く、地元農産物は午前中で④になる状態が続いている。

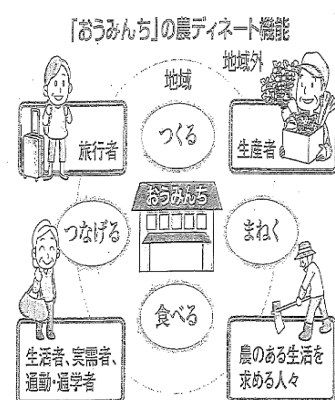
「おろみんち」を擁する当JJAは、中小企業数がある全国に位置する滋賀県にある。このため、管内には、消費人口、小売サービスマスの店舗数

パランスを取ることに翻弄（ほんろう）された。現場の事情を押し付けてしまいがちな生産者側と、「いつでも同一品質の農産物がふんだんにそろつて」「一ヶ所は何でも安く手に入る」「一端揃期つて何々」といった消費者の認識の意に留まされることは

岸に、地元農家の農産物を販売するだけにとどまらず、農産物の食べ方や保存方法を伝える手段を構築し、地産地消そのものが次世代・次々世代に受け継がれるよう、パイピング形式のレストラン事業を展開している。

レストランでは、女性農業

を「おちみんち」の一つのキャラクターズにし、長靴、カッパ、手袋、はきみなどを準備し、直接畑で収穫し、販売する^④の直売スタイル「畑の直売所」を展開した。すると、「今度いいところの」どこに問い合わせればいいのか」などの要請があり、ゲル



かいて、一年後には「何もない店」(商品はどろえが悪い店)と、好ましく無い風評ばかりが聞かれた。

こうした⑤の差を埋めるべく、「おうちまんち」ではさきさきまな取り組みを続けてきた。

①農産物を「つくる」「生産者」を全国的に10年ず

者が「着る」・「食める」・「暮らす」
「場ける」など、農村の食文化研
究を駆使して、「食べること」で
健康を」との思いで、食べ物で
「ゼロロ」を意識した食育情
報を発信し続けてきた。12年
来は教育現場との連携として、
出前授業への参加や、大
学での100円朝食の提供な
ども行うようになった。

③「つながる」活動――生消
の認識の差

生産者・消費者双方に、
「この時期地域で何が作ると
か」がきいて、作られている
か」「その産物をいかにして

た。同時に生産者に「愛さ
れ、つくづくの必要を感
じた。お母さんに「愛さ
れて50万人、喜ばれて10億
円」の目標を掲げ、2部増産
運動に入ることにした。
これがきっかけで、さらに
知産知消の拡大をするため
につくる「食べる、つな
ぐ」を活動のキーワードに据
えた「お母さんのちあぐりタ
ン構想」をスタート。交流活
動の中心をなすクラブ「青空
フィットネスクラブ（1日農
業者体験）」が誕生した。
長靴から農機具までを完備
し、買い物ついでに参加でき

- 出荷側と需要側 認識に差
- 直売所が生産者育てる
- 食べ方・文化を伝える
- 地域に人を「まねく」場に

ポイント

程度の機能があり、年間20回程度の開催に登録クラブ員350人が自由に参加している。このクラブを通して、出荷者もつと消費者の声に耳を傾けることができ、消費者は食べれる農産物があるところと地域を理解することができるといふ効果が期待できる。交流事業の原点であり、その対象は子どもたちから高齢者まで幅広くカバールが可能になる。

近年、地域コミュニティやネットワークを重視した地域づくりが不可欠な時代となった。地産地消は理にかなった食の提供ではあるが、従来通り「農業者は農業を」「消費者は購入を」だけでは^⑩しない時代とも言える。

地産地消の主役は誰か。一方の主役は「おうみんち」に
来店されるお客さん、地域住
民、地域を訪れる人たち、地

地域企業に勤務する従業員、地域で就学する学生、生協の組合員ら、この地を訪れる外国人観光客、地域の宿泊施設等を利用する人らだ。もう一方の主力役は、その地域の農村であり農業家。「おうみんち」という「農ディネーター」が中心に立ち、生活者や実需者ののび二エースをしっかりと受け止められる農業者と団体が育ててきた。近年は、周辺の集落若農組合、農事組合法人開設（かいほつ）や農業組合（農

育を「サード」に、農を育む活動に挑戦し始めたことは喜ばしい限りだ。

「農を育む」農育スタイルは、地域や農、農村、農業、農業者ができることを提案し、受け入れる「9割近く」機能とも言える。

農での「おもてなし」を実行できる機能、その橋渡しを考えるとき、地域の直売所には、産地と消費地を結ぶライン上にある企業などを④に結び付け、地域活性化をつかっている機能があるのと思っている。

受 験 番 号	
氏 名	

テーマ：直売所は地域の「農ディネーター」）を読んで、次の質問に答えなさい。

問１ 次の読みを漢字で書きなさい。

①じつじゅしゃ（ ） ②しきち（ ）

③てつやぐみ（ ） ④かんばい（ ）

⑤にんしき（ ） ⑥いっと（ ）

⑦てんかい（ ） ⑧かいしょう（ ）

⑨けつらく（ ） ⑩きゅうきよく（ ）

⑪じゅんかん（ ） ⑫ゆうえき（ ）

問２ 次の漢字の読みを書きなさい。

ア：盛況ぶり（ ） イ：擁する（ ）

ウ：端境期（ ） エ：煮る（ ）

オ：炒める（ ） カ：蒸す（ ）

キ：揚げる（ ） ク：増産（ ）

ケ：構想（ ） コ：援農機能（ ）

サ：不可欠（ ） シ：挑戦（ ）

ス：育む（ ）

問3 滋賀県にある JA おうみ富士の地域で「園芸生産は停滞し、遊休地化が進んでいる」要因をどのように説明していますか。説明している部分を書き出してください。

① _____

② _____

問4 JA おうみ富士が直営しているファーマーズマーケット「おうみんち」では、様々な取り組みを大きく4つに分類しています。そのことについて、下の問いに答えなさい。

①新規出荷者を「育てる」ために、どんなことを行っていますか

②食育情報を発信し続けた中で、教育現場と連携してどのようなことを行っていますか

③究極の直売スタイル「畑の直売所」を展開している目的は、どう思ったから始めたのでしょうか

別紙2（11）畜産物

（飼養戸数が減少する中、1戸当たり飼養頭羽数は増加）

平成29（2017）年における飼養戸数は全ての主要畜種において減少し、その一方で1戸当たり飼養頭羽数は全ての畜種において増加しました（図表2-3-29）。今後も、離農後に残された家畜や採草地等を引き受ける形で1戸当たり飼養頭羽数は増加が続くと見込まれますが、担い手の高齢化や労働力の不足が深刻化する中、より多くの若手が就農を目指す魅力ある労働環境となるよう、畜産クラスター1の形成等による機械や施設の導入、ヘルパー組織やTMRセンター2等の支援組織の充実等を進めることが重要です。

図表2-3-29 畜種別飼養戸数と1戸当たり飼養頭羽数

(単位：戸、頭、千羽)

		飼養戸数				1戸当たり飼養頭羽数			
		平成19年 (2007)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	平成19年 (2007)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)
乳用牛	北海道	8,310	6,680	6,490	6,310	100.6	118.6	121.1	123.5
	都府県	17,100	11,000	10,500	10,100	44.2	52.6	53.3	53.8
肉用牛		82,300	54,400	51,900	50,100	34.1	45.8	47.8	49.9
	子取り用めす牛	71,100	47,200	44,300	43,000	8.9	12.3	13.3	13.9
	肥育用牛	12,400	8,210	8,330	7,840	59.4	90.2	86.4	92.1
	乳用種	7,550	5,320	5,040	4,950	140.9	155.6	166.1	168.6
豚		7,550	…	4,830	4,670	1,292.6	…	1,928.2	2,001.3
採卵鶏		3,460	…	2,440	2,350	41.3	…	55.2	57.9
ブロイラー		2,583	…	2,360	2,310	40.8	…	56.9	58.4

資料：農林水産省「畜産統計」を基に農林水産省で作成

注：1）各年2月1日時点

2）採卵鶏は成鶏雌1,000羽数以上の飼養者の数値

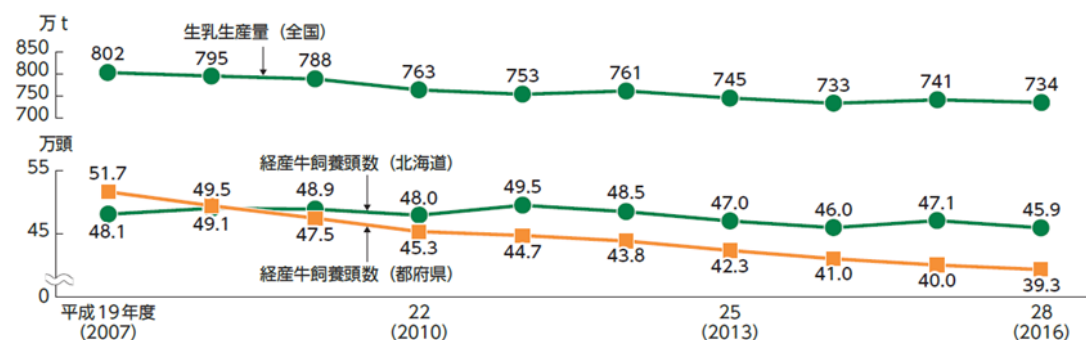
3）ブロイラーは平成19（2007）年は全飼養者の数値、平成27（2015）年以降は年間出荷羽数3,000羽以上の飼養者の数値

4）平成27（2015）年は農林業センサス実施年のため、豚調査、採卵鶏調査及びブロイラー調査を休止

（生乳の増産に向けて、乳用後継牛の確保が重要）

平成28（2016）年度における生乳は、経産牛の頭数が前年度に比べ1万9千頭（2.2%）減少、1頭当たりの乳量と同15kg（0.2%）増加した結果、生産量は前年度に比べ6万t（0.9%）減少の734万tとなりました（図表2-3-30）。生産地域別に見ると、北海道は前年度に比べ1万t減少の389万t、都府県は前年度に比べ6万t減少の345万tとなりました。

図表2-3-30 生乳生産量と北海道・都府県別の経産牛飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」

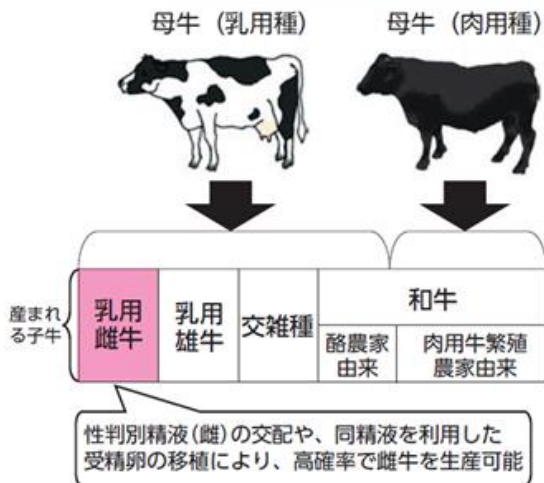
注：頭数は各年度2月1日時点

1 用語の解説3（1）を参照

2 用語の解説3（2）を参照

近年、経産牛の頭数は減少傾向で推移しており、このことが生乳生産量の減少につながっています。酪農家は、病気・怪我による死亡や廃用で減少した経産牛を補充できるよう多くの場合後継となる乳用雌牛を自家生産しますが、この数年間、肉用子牛価格の高値が続いたことから、都府県の酪農家を中心に、黒毛和種精液の交配や和牛受精卵の移植により交雑種や黒毛和種を生産する動きが広がり、この結果、経産牛の頭数が減少しています。生乳の増産に向けては、乳用種の性判別精液の交配を普及し、増頭した雌子牛を預託も含めて着実に育成する体制を整備することにより、後継となる乳用雌牛の必要頭数を確保していくことが重要です（図表2-3-31、図表2-3-32）。

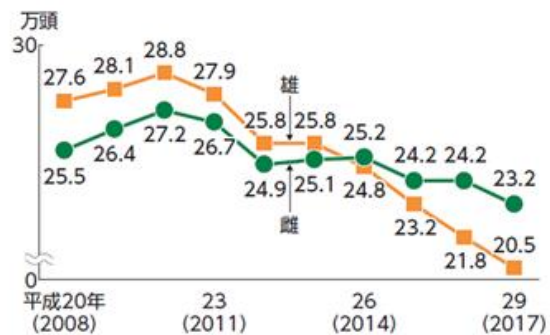
図表 2-3-31 性判別精液等による乳用雌牛確保のイメージ



資料：農林水産省作成

注：酪農家由来とは、乳用牛への和牛受精卵移植により生産された和牛

図表 2-3-32 雄雌別乳用種出生頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

注：各年2月1日時点

近年、嗜好の多様化や小学生の児童数の牛乳等の消費量が減少傾向にある中、料理の利用等によりチーズの消費量が増加してナチュラルチーズについては、全国各地で酪農家や事業者が着実に増加するとともに商品の製造・販売が進み、国際コンテストするものも見られるなど品質の向上も進んだ国内チーズ市場で国産のチーズ（リコッタ）



減少等によりやおつまみでいます。国産製造に取り組んで上位に入賞でいます。拡国産ナチュラルチ

ェアを高めるためには、原料面での生乳の高品質化・コスト低減に向けた取組の強化や製造面でのコスト低減と品質向上、ブランド化等を図り、更なる国産チーズの競争力の強化を進めていくことが重要です。

別紙2は、平成29年度 食料・農業・農村の動向から「第2章 第3節 主要農産物の生産動向など
(11) 畜産物」を抜粋したものです。その文章を読み、以下のそれぞれの問に答えなさい。

問5 図表2-3-29から、北海道では平成19年から平成29年の間に乳用牛の飼養戸数が 何戸、何%（小数点第1位）減少しましたか。下の空欄を埋めなさい。

平成19年（ ）ー平成29年（ ）＝減少（ ）戸

＝減少割合（ ）%

問6 家畜飼養戸数の減少に対して1戸当たりの飼養頭羽数が増加していることに対して、どのような支援組織の充実等が重要だと書いてありますか。

（ ）

問7 図表2-3-30から、平成19年から平成28年の間における経産牛飼養頭数の減少について、平成19年を基準にすると北海道と都府県の年次間をそれぞれ比較した下の空欄を埋めなさい。（数値は、小数点第1位までとする）

平成19年に比べ、平成28年の経産牛飼養頭数は

北海道は（ ）万頭・（ ）%の減少

都府県は（ ）万頭・（ ）%の減少

問8 近年、生乳の生産量が減少していますが、その原因は何があると書いていますか。

（ ）

また、その原因には何があると書いていますか。

（ ）

（以上です）

試験時間は10分間です。

受験番号

氏名

$6+4=$

$\frac{1}{5} \times \frac{2}{15} =$

$2 \times 1.2 \times 5 =$

$1.2 \div 3 =$

$9 \times 5 =$

$-5 \times (-4)^2 \times (-3^2) =$

$36 \div 6 \times 2 =$

$0.8 \times 0.2 =$

$4 \times 3 =$

$(-2)^3 \times (-5) + 21 =$

$40 \times 3 =$

$(2+9-3) \times 4 =$

$4 \div 2 =$

$\sqrt{49} =$

$6 \times 9 =$

$0.7 \text{ m} =$ c m

$42 \div 7 =$

$\frac{2}{8} \times 6 =$

$100 \times \frac{1}{2} =$

$1 \text{ d L} =$ m L

$17-9 =$

$\frac{3}{4} - \frac{1}{2} + \frac{1}{9} =$

$1 \text{ L} \div 100 \text{ mL} =$

$4,200 \text{ m} =$ k m

$13-45 =$

$2:6=8:$

$3^3-20 =$

$\sqrt{3} =$ (小数点第2位を四捨五入)

$125 \div 5 =$

$\frac{9}{3} \div 0.3 =$

$(8-9)+3 =$

$\frac{2}{3} = \frac{\quad}{9}$

$1000 \div 100 =$

$5-9 =$

$625-111 =$

$3+9-4 =$

$0.5 \times 2 =$

$92 \div 0.1 =$

$4.9+0.8 =$

$4 \times 8+3 =$

$5.3 \times 0.1 =$

$1 \text{ L} =$ m L

$97 - \quad = 45$

$4+8 \times 3 =$

$0.3 \times 1.5 =$

$10,000 \text{ g} =$ k g

$33 \times 3+1 =$

$4 \div 8 \times 3 =$

$4 \div 0.5 =$

$40 \text{ m} \times 20 \text{ m} =$

$\frac{1}{7} + \frac{2}{6} =$

$\frac{2}{3} \times \frac{3}{4} =$

$3.5 \div 0.5 =$

$300 \text{ m} =$ k m

$\frac{1}{7} \times \frac{2}{6} =$

$2450 \div 2 =$

$(2+3)-(-5+4) =$

$100 \times \frac{1}{4} =$

$\frac{1}{7} \div \frac{2}{6} =$

$2.9 \times 5 =$

$-8-15 \times (-2) =$

$25 \times \frac{2}{5} =$

$42 \div 7 =$

$\sqrt{64 \times 2^2} =$

$13+12 \times 3 \div 6 =$

$7 \times 14 =$

$8+4 =$

$50 \times 4 =$

$(7+6) \times 2 =$

$\frac{5 \times 4}{2} \div 5 =$

$15 \times 4 =$

$2329-1432 =$

$3+2+9 =$

$(9-3+6) \times 2 =$

$4 \times 3 \times \frac{1}{2} =$

$2^4 =$

$92 \div 2 =$

$80 \div 20 =$

$2:1=92:$

$3^2-12 \times 1.3 =$

$0.3+5+0.7 =$

$4 \div 0.2 =$

$3:4=15:\frac{\quad}{2}$

$12 \div 3 \times 2 =$

$(-2)^2 \times (-5) + 21 =$

$52 \times 3 =$

$42 \div 3 =$

$\text{気温 } 25^\circ\text{C} \text{ の時、}$ g

$53 \times 2 =$

$\frac{1}{2} : \frac{35}{7} = 1 :$

$-4X=24, \quad X=$

$1 \text{ L} \text{ の水は}$

$\frac{1}{3} \times 9 =$

$3 \text{ m} =$ c m

$0.2 \times 4 =$

$450-68 =$

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} =$

$4+6+3 =$

$1.2 \times 3 =$

$9 \times 8 =$

$5 \times 0 =$